

# 第2会場●4F 視聴覚室

■司 会／野口 高幸 鳥取県教育委員会西部教育事務所 社会教育主事  
田原 優子 佐賀県立生涯学習センター 企画副主任

## 1 「マロニエ音楽祭」を支えるコミュニティ文化と生涯学習の発想 10:45～11:10

－「市民さわやかイベント運営セミナー」の生み出したもの－

岩坪恵美子（鹿児島市） 鹿児島おかみさん会 会長

市民講座「イベント運営セミナー」の受講者が仲間を募って実行委員会を設立。自らの生涯学習実践とコミュニティ文化への参画をかねて、地域の公民館を拠点として手作り音楽祭を発足させた。地域住民の理解と協力を得て、学校の生徒を始め、出演者の希望は多く、出演後は準備委員として開催・運営を協働するサイクルも出来つつある。16年度からは後援会方式を導入して財政面を強化したが、活動の浸透と共に地域企業から協賛金も得られるようになった。

## 2 「(株)鉄の歴史村」：過疎への挑戦の原理と方法 11:10～11:35

－「交夢員」がつくるまちづくり会社－

松島 俊枝（島根県雲南市） 株式会社鉄の歴史村 マーケティング戦略プロモーター

雲南市旧吉田村地区の活性化を図るため、平成16年、ツーリズムの発想を生かし、過疎地の自然と歴史環境を前面にだしたまちづくりのための株式会社を設立した。主たる活動の場は、たたら製鉄で有名な「鉄の歴史村」、宿「若槻屋」、山里カフェ「はしまん」などである。課題は、マーケティング戦略、宿づくり、農業体験や創作体験のプログラムの技術戦略、地域内組織の連携などコミュニティ戦略、最後は全国ネットワークの活用であるが生涯学習実践交流会は格好のマーケットである。

## 3 市民センター「館長公募制」と生涯学習振興の方法論 11:35～12:00

寺坂 博文（北九州市） 北九州市教育委員会生涯学習課 社会教育主事

北九州市教育委員会は各コミュニティの生涯学習・生涯スポーツの拠点となる市民センターの館長を公募するシステムに踏み切って久しい。「公募制」はコミュニティレベルの市民活動をどのように活性化したのか？なぜ活性化したのか？手続きや登用上の問題点はなにか？「館長公募制」を継続する理念的背景とメリット／デメリットを分析し、それが生涯学習の振興にどのように具体化されていくのか、その方法論を聞く。

## 4 総括討論

12:00～12:30